

## 2018年 国内サーバー市場動向を公表

**Japan, 2019年3月26日** - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社（所在地：東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長：竹内正人、Tel代表：03-3556-4760）は、2018年通年の国内サーバー市場動向を発表しました。2018年の国内サーバー市場全体の売上額は5,067億円で、前年から7.6%増加しました（図1）。出荷台数は52万9千台で、前年から2.8%増加しました。

2018年の国内サーバー市場は、昨年に引き続き、前年比プラス成長となりました。製品別では、x86サーバー（注1）の売上額が前年比2桁のプラス成長となり、国内サーバー市場を牽引しました。また、その他のサーバー（注2）もプラス成長となりました。一方、メインフレームは、2桁のマイナス成長となりました。

x86サーバーは、売上額が前年比15.6%増の4,143億円でした。クラウドサービスベンダーや、企業のデータセンター向けの大口案件、官公庁や文教におけるテクニカルコンピューティング用途の大口案件などがあり、出荷台数が前年比プラス成長（注3）になりました。加えて、x86サーバーの平均単価が前年比で上昇し、売上額の2桁プラス成長に貢献しました。なお、クラウドサービスベンダーを主な出荷先とするODM Directの売上額は、前年比21.3%増の567億円、ODM Directを除いたx86サーバーの売上額は、前年比14.8%増の3,576億円でした。

その他のサーバーは、前年比6.2%増の387億円でした。通信、金融、官公庁におけるミッションクリティカル用途の更新案件などがあり、4年ぶりにプラス成長となりました。メインフレームの売上額は、前年比29.5%減の538億円でした。前年は金融、官公庁、製造における基幹系システム更新の大型案件がありましたが、今年はその反動で2桁のマイナス成長となりました。

IDC Japan エンタープライズインフラストラクチャリサーチマネージャーの下河邊 雅行は「x86サーバーの出荷台数のプラス成長に加えて、同サーバーの平均単価が上昇し、国内サーバー市場が大幅にプラス成長した。x86サーバーの平均単価が上昇した理由は大きく2つある。ひとつは、ソケットレイパビリティ別（注4）のサーバー出荷台数構成比が変化したことである。具体的には、x86サーバーの総出荷台数において、1ソケットサーバーの構成比が低下し、2ソケットサーバーの構成比が上昇した。これは、大口案件をはじめ、データセンターやテクニカルコンピューティング用途の出荷台数が増加したことが背景にあるとみている。もうひとつは、出荷時のサーバー構成がよりリッチ（高仕様）になったことである。ソケットレイパビリティに関わらず、x86サーバー

に搭載するプロセッサのコア数増加、これに伴うメモリや内蔵ストレージの容量増加、SSD ( Solid State Drive ) 搭載ケースの増加などが影響したとみている。また、テクニカルコンピューティング用途として、GPU ( Graphics Processing Unit ) を搭載するケースが増えたことも影響したとみている」と述べています。

カンパニー別の売上額では、富士通が首位を獲得しました ( 図2 ) 。メインフレームは、前年にあった金融向け大型案件の反動で2桁のマイナス成長、その他のサーバーもマイナス成長でした。一方、x86サーバーは、官公庁や文教におけるテクニカルコンピューティング用途の大口案件、官公庁における基幹系用途の大型案件などで2桁のプラス成長となりました。2位は、NECでした。メインフレームは、前年にあった官公庁、金融向け大型案件の反動で2桁のマイナス成長、x86サーバーもマイナス成長でした。その他のサーバーは、官公庁における更新案件で3桁のプラス成長となりました。3位は、日本ヒューレット・パカード ( HPE ) でした。その他のサーバーは、通信、金融向けミッションクリティカル用途の更新案件などがありましたが、成長率は前年から横ばいとなりました。x86サーバーは、企業のデータセンター向けや、官公庁や文教におけるテクニカルコンピューティング用途の大口案件などでプラス成長でした。4位は、前年から順位を1つ上げたデル ( Dell Inc. ) でした。企業のデータセンター向けの大口案件など出荷が好調で、2桁のプラス成長でした。5位は、IBMでした。メインフレームは、前年にあった金融、製造向けの大型案件の反動で、2桁のマイナス成長でした。その他のサーバーは、金融、製造向けの大型案件で2桁のプラス成長でした。

出荷台数においても、富士通が首位を獲得しました。NECが2位、3位以下は、HPE、デル、日立製作所の順でした。なお、ODM Directの出荷台数は前年比、6.5%のプラス成長となり、3位のHPEに次ぐ規模でした。

注1: 「x86サーバー」は、x86アーキテクチャのプロセッサを採用しWindows、Linuxなどオープン系のOSを搭載したサーバーです。Itaniumプロセッサを搭載したサーバーやベンダー独自OSを搭載したサーバーはx86サーバーに含めません。また、「x86サーバー」と「メインフレーム」以外のサーバーを「その他のサーバー」として記載しています。

注2: 「その他のサーバー」は、「RISCサーバー」、「IA64サーバー」、「ビジネスサーバー」、「スーパーコンピュータ」の総称として使用しています。

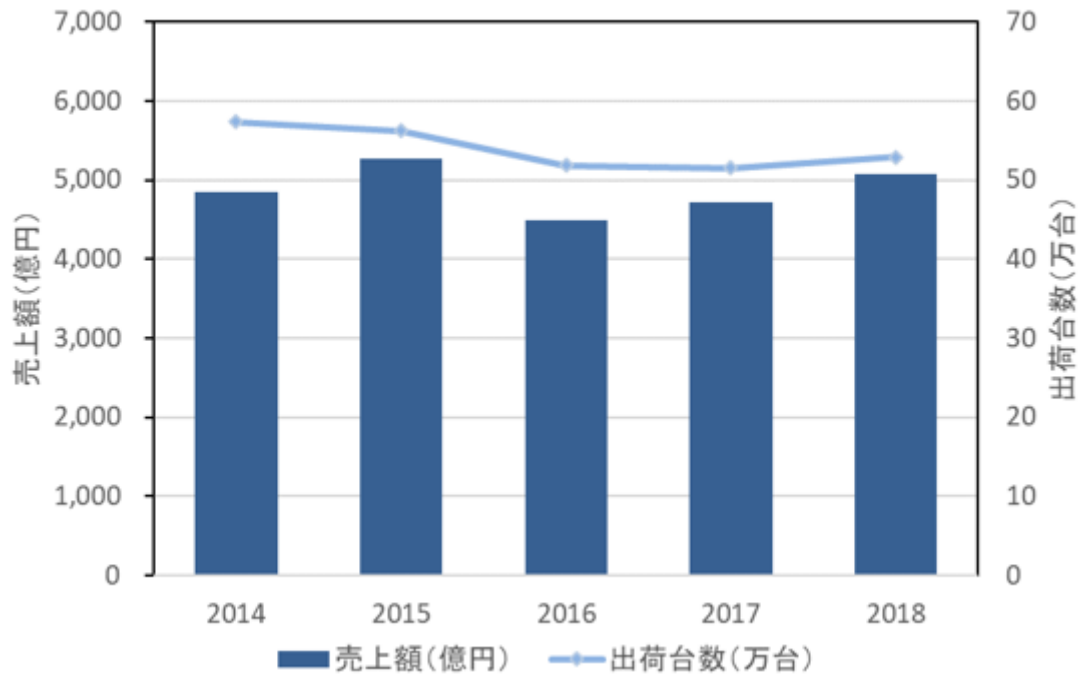
注3: x86サーバーの出荷台数は前年比2.8%増、52万4千台。

注4: ソケットとは、プロセッサを搭載する際のマザーボード上の接続部を指します。ソケットケイパビリティとは、サーバーに搭載可能な最大ソケット数を表します。つまり、サーバーに搭載可能な最大プロセッサ数を意味します。

< 参考資料 >

図1. 国内サーバー市場の推移：2014年～2018年

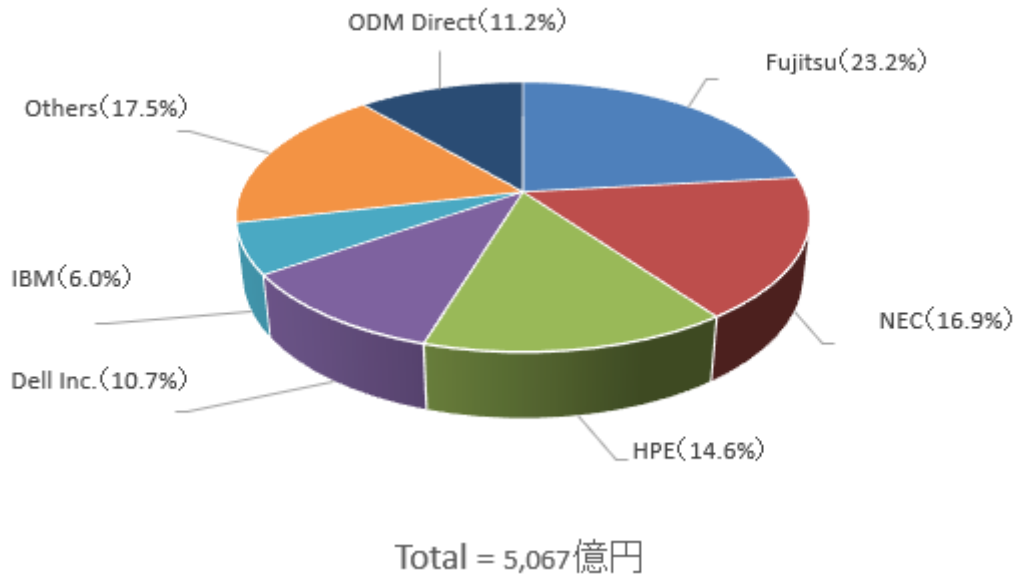
Figure 1



Source: IDC Japan, 3/2019

図2. 2018年 国内サーバー市場ベンダーシェア【売上額】

Figure 2



※端数処理[四捨五入]の影響により合計値の末尾が一致しません。

Source: IDC Japan, 3/2019

## **About IDC**

IDC is the premier global provider of market intelligence, advisory services, and events for the information technology and telecommunications industries. IDC helps IT professionals, business executives, and the investment community make fact-based decisions on technology purchases and business strategy. Over 775 IDC analysts in 50 countries provide global, regional, and local expertise on technology and industry opportunities and trends. For more than 40 years, IDC has provided strategic insights to help our clients achieve their key business objectives. IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. You can learn more about IDC by visiting <http://www.idc.com/>.

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at [www.idc.com](http://www.idc.com).

All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

## **For more information contact:**

jp-Press Japan  
jp-press@idcjapan.co.jp  
+81-3-3556-4768